

場所によるヨシの違い

■干潟内のヨシ、河口域のヨシ

干潟内のヨシはFig. 1に示すように、大変生育がよくない。地盤が沈下したことによる塩分濃度の上昇が原因ではないかと思われる。それに対し、淡水の影響を受ける河口域では順調にヨシが生育していた(Fig. 2)。河口域の様子は以前の干潟を思わせる姿で、ボラの稚魚が泳ぎ、アシハラガニが顔をのぞかせ(Fig. 3)、チゴガニの求愛ダンス(Fig. 4)を見ることができた。河口域の環境を保全することで、かつての干潟内に見られた環境を再現することができるかもしれない。



Fig.1 干潟内のヨシ



Fig.2 河口域のヨシ



Fig.3 Fig.2付近のアシハラガニ

■たくましく生きるアシハラガニ

先月まで干潟内では全く見られなかったアシハラガニを、今回の調査では少ないながらも確認することができた。ヨシは無いに等しい環境で巣穴を掘り、石の陰に隠れ生息していた(Fig.5 6)。残されたきびしい環境でたくましく生きる彼らが、今後数を増やし干潟にあふれ日が来るよう、今後の調査に取り組んでいきたい。



Fig.4 求愛のダンスをするチゴガニ



Fig.5 干潟のアシハラガニ



Fig.6 アシハラガニの巣穴